

芸北教育

広島県立加計高等学校
芸北分校

318号

令和3年
～7月～

「教育実習」が終わりました

5月31日(月)から6月25日(金)までの4週間におたつて、本校卒業生の藤本惇平先生(平成29年度卒、国語科)と堀井亮佑先生(平成30年度卒、保健体育科)の2名が教育実習を行いました。実習当初は、「高校生」として身を置いていた時との違いや、先生として求められる振る舞いなど、戸惑っている様子も見られました。が、日を追うごとに表情も精悍になり、「先生らしさ」が伺える場面が増え、実習が終わる頃には自信をもって生徒の前に立てていまし

た。卒業後に母校で教壇に立つということとは、感慨ひとしおだったことでしょう。実習の最後には、後輩たちと記念撮影し、4週間の実習を無事終えました。



藤本惇平先生

改めて芸北分校に帰ってきて、生徒の時とは違い「先生」という立場で芸北分校に携わることができて非常に嬉しい思いで教育実習期間を過ごしました。



様々な体験をさせていただいて、動機付けの方法や生徒への声かけの仕方など

全国から入学できます！ 女子寮、女子下宿、男子寮完備。町より月一百万円の補助制度あり。見学随時可能。
(電話)〇八二六・三五・〇七二六



様々な発見がありました。そして何より「芸分の雰囲気」を肌身に感じ、全力でやることの大切さを改めて感じ、教師への思いが強くなりました。これからも「芸分魂」を忘れずに生きていきます。

堀井亮佑先生

実習を終えて、改めて教師になりたいと強く思うようになりました。4週間という短い期間でしたが、芸北分校で教師として生徒と接し、生活したことで、自分にできること、教師になっ

てやりたいことを多く見つけることができました。

体育の楽しさを教えること、学習することの面白さを伝えることなど、自分のできることを、やりたいことをできるように、残りの大學生生活を「8020」を胸に一生懸命に過ごしていこうと思います。

2人とも「教師」として芸北の地に帰ってきてくれることを期待しています。

「分校魅力化コーディネーター」

先月号でお伝えした、「分校魅力化コーディネーター」が決まりましたので、この紙面を借りて紹介します。

7月から分校魅力化コーディネーターとして配属になった前田奈津枝です。

昔ながらの暮らしが世界を救うと思つて、実践中！藍染めや味噌・醤油作り、へチマタワシ作り、野菜作り、ヨガなどを続けています。芸分の素敵さをどんどん広めていきたいです。よろしくお願いします。



中高合同体育祭について

延期になっていた中高合同体育祭については、9月18日(土)に実施することとなりました。コロナ対策として、午後のみ半日開催で、観戦については保護者に限定して実施いたします。ご容赦ください。

部活動における活躍

女子ソフトテニス部

6月12日(土)、13日(日)の両日、びんご運動公園テニスコートで県総体団体戦が行われました。団体戦には岡田・山元ペア、濱田・久木野ペア、佐藤・犬山ペア、栗栖・小林ペアの4組が出場し、ベスト8に入りました。ベスト8進出校のうち、公立高校は3校のみという中での大健闘でした。個人で中国大会へ出場する濱田・久木野ペアは次のように抱負を述べていますので紹介します。

まず、このコロナ禍で多くのことを制限される中、沢山の方々からのサポートや協力のもと、中国大会が開催され出場できることに感謝します。自分達らしく元氣よく、どんな時でも諦

めず「芸分魂」で最大限の力を出し切れるよう精一杯頑張ります。



神楽部

神楽部は、7月24日(土)、25日(日)に神楽門前湯治村で開催される、「第10回高校生神楽甲子園ひろしま安芸高田」に出場します。また、8月2日(月)から3日(火)に和歌山県で開催される、「第45回全国高等学校総合文化祭和歌山大会」の郷土芸能部門に広島県代表として参加します。

部長の立花優斗君(3年)の大会への意気込みを紹介します。

コロナの影響で満足に練習できない日々が続きましたが、OBの方々からのご指導をいただきながら、各自でイメージトレーニングや個人での課題練習などに取り組み、準備を進めてきました。今は部活動が再開します。最後の追い込みを行っていきます。今まで練習してきたことを全力で出し切りたいと思います。



硬式野球部

硬式野球部は、7月10日（土）に開幕する、第103回全国高等学校野球選手権広島大会に出場します。

元岡甚太郎君（3年）による激励文を紹介します。



今年も昨年と同様、コロナの影響で部活動の制限がかかる中での夏の大会を迎えましました。そんな中でも、学校全体で感染対策を徹底し、日々の厳しい練習に励んできました。

（中略）

この大会では、自分たち芸分野球部を支えてくださっている先輩方、地域の方々、保護者、大会を運営してくださる関係者

の方々へ感謝し、最後の最後まで芸分野球を貫きます。そして、自分達の「さわやかに圧倒する」野球で、少しでも元気を届けます。

「農業」における交流授業

6月9日（水）、平成25年度以降交流を重ねてきた、広島北特別支援学校の生徒とオンラインでの交流学习を行いました。コロナの影響で直接対面しての交流はできませんでしたが、一緒に作業できる日を心待ちにしています。



「自分の信じる道を行け」

つい先日までネット上を賑わすトレンドワードだった「ドラゴン桜」。
見どころはたくさんありましたが、ここでは「藤井の人間の成長」を取り上げます。
学園の成績優秀者である藤井は、最初のうちはプライドが高く、人を見下した態度しか取れない、自己肯定感の低い人物でしたが、最終話では仲間思いで自信に満ちた人物に変わっていました。藤井は受験会場での受験生に絡まれていた健太を助け、手首を負傷して、受験にも失敗してしまいます。健太から「自分のせいかな」と問われて、藤井は次のように返します。

「お前を助けたとき、何かうれしくて…。
前の自分じゃ絶対助けたりしなかった。でも助けに行けたんだ。そういう自分になれたことが嬉しくて、その後の試験も興奮しちゃって…でも後悔してないから。」

高校受験を失敗したコンプレックスを感じ続け、人を見下すことしかできなかったのが、目標に向かって努力する過程の中で「仲間」を意識し、「人を想う」という、人として最も大切なものを手に入れた瞬間でした。
もう一つ印象に残った桜木先生のセリフを紹介しします。

「目標に向かって過ごした1分1秒、自分の人生を変えようがむしゃらに努力した道のり、熱意、仲間への思い。それこそ価値がある。」

人として大切なことが込められた一言だと感じました。
（夏疾風）